

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 25 年 5 月 28 日 (火)
地区/会場 小俣小学校区/
小俣老人福祉会館 集会室
参加者数 21 人



《質問・意見》

伊勢市駅前の三交跡がこれからいったいどうなるのか。

武雄市の図書館が話題になっていて、ツタヤと提携して 24 時間営業ですごくいい図書館が出来たという話を聞いた。一番不便を感じるのは 19 時で閉まってしまう。せめて小俣か伊勢のどちらかをせめて 21 時まで時間延長してほしい。

《回答》

三交跡地は現状、駐車場とする方向性です。遷宮が終わるまでは駐車場で活用させてほしいという気持ちがあります。外宮が渋滞してきて、駐車場が必要であるとの声もあります。できれば、しばらく 2~3 年は駐車場として活用させていただいて、その後は民間の方と議論をしながら、こういったものがふさわしいかという話し合いをしていきたいです。

《質問・意見》

その駐車場は浦田のように機械の駐車場となるのか。人がやる駐車場となるのか。

《回答》

まだそこまで確定していません。

(観光企画課)

お白石の期間はそうように考えている予定です。そういうことも協議中です。

図書館の開館時間は検討材料とさせていただきます。公共施設の利用のあり方で、施設の利用時間の要望はいろいろとあります。

例えば最近ですと、工場や夜働いている方々に対してのサポートで、子どもの保育について、新潟か福井かで 24 時間預かっているところもありますので、こういったものをできるだけ配慮した形でしていきたい。いつできるかは明言できませんが、取り組んでいきたいです。

(観光企画課)

三交の土地は民間の土地ですので、市が自由にできることではないので、ご理解ください。

《質問・意見》

コミュニティ放送の件ですが、結論から言いまして、今行政が考えている平成25年12月末までのコミュニティ放送の終了を一年間延長してほしい。

経緯については、市長はよくご承知だと思うのですが、これは合併時に調整項目の中に明記されている。そのような7年間経過した中で、まず3年ほど前に防災放送についてはデジタル化で一元化するということを決めた。当然その時点でコミュニティ放送に関しても、検討し、結論を出しておかなければならなかった。これははっきり言って行政の怠慢であったと私は思っている。

そういった中で、今年の3月議会で1億7百万の補助金を出すからやりなさいと球を投げられた。7年も検討せずほっておいて、8ヶ月か7ヶ月の間にこの問題を自治区で解決しろといったって、世帯数が800、700もある自治区もある小俣には、これを皆さんに納得していただいて、この12月までに完成させることは難しい。

機器も購入しなければならないし、工事もしなければならない。その前にまず行政がどこまでやってくれたのか。3月議会で議員の質問に答えて、行政も地域とともに、いいものを導入することに力を入れますということ放送で聞いた。この件に関して小俣の自治区としても、これならやらないといけないということで、住民説明会を何箇所かの自治会でやろうとしている。この時に当然我々もわかることも多々ある。住民の方は全然わからないという方もおられるが、このコミュニティ放送は旧小俣町の財産です。今の防災と同時に一度コミュニティ放送を12月までにできなかったからもう一度止めといて、またいつかやれば。今の行政だと3年間の補助金制度になっています。それをまたやろうかというのではいけないと思う。続けて継続できる様なシステムにしないといけない。

最後をお願いしたいのは、一年間この今のアナログを延長できないのか。できないのであればできない理由を明確にしてもらいたい。

《回答》

一年間延ばすことは無理なのです。

これはテレビの地デジ化であるように、日本国内の電波がアナログ波からデジタル波にかわる経緯の中で、これまでお使いいただいたコミュニティ放送がアナログ波であったことから今回導入させていただいたところです。

《質問・意見》

その答えはいけない。

それは違う。今でも一年延ばすことはできる。技術的にはできる。伊勢市がするかしないかだ。

《質問・意見》

この近郊でも今のアナログ波で10年間やりますというところもある。防災ラップ無線を決められた時に検討しておかなければならなかった。

今の市長のお話では納得できない。後からでもいいので回答してください。

《回答》

(危機管理課)

防災行政無線のデジタル化による小俣町が運用している戸別受信機、これの終了を一年間伸ば

せないかというご質問ですが、結論として、市長が申しましたとおり、できないということです。

その理由は合併前、それぞれ4市町村でアナログの防災行政無線のラップ方式も取っていました。戸別受信機と平行してそれぞれ伊勢市が平成13年・二見町が平成11年・小俣町が平成10年・御菌村が昭和55年ということで、そこからすでにそれぞれ10年以上運用開始から経っており、機器については交換の時期・いつ壊れてもおかしくない状態にあるということで、平成22年にどうしていくかを見直しする中で、デジタル化による一元化をしていこうということになりました。

その時点で、東海電波管理局の方に、伊勢市としてはデジタルで一本化していきますと、それぞれ4つがもっているアナログの放送を伊勢市としてはデジタルで一本化していくという報告をしています。

これは電波法の関係審査基準によって、防災行政無線の周波数は一市町村一波ということで決められていますので、4つの今まであったアナログの電波については、一つにしなければならないということ、それはいつということは明確に決められていませんが、伊勢市としてはそれを平成22年～25年にやっていくということで、東海電波管理局にすでに出してあるのです。

国の補助を受けて平成25年に完了するという進めており、その統合が終了した時点でデジタル化が完了したということになりますので、従来4市町村で使われていたアナログの電波は使われなくなるということです。

《質問・意見》

それはあなた方の考え方だけなのです。その時点でなぜ今の小俣町のコミュニティ放送を検討しなかったのか。

《回答》

検討はずっとしていたのですが、結論が遅れたのです。

当初デジタル波に換えて地域のコミュニティ放送をどうするかという議論をしている時に、一番最初は伊勢市全体に戸別受信機を設置したらどうなるかというシミュレーションから入りました。その想定でいくと当時の試算で20～25億円位かかるだろうということで、そこから随分頭を悩ましました。結論が遅くなったことは申し訳ないことですが、そこで地域のコミュニティ放送・地域の連絡体制を、しっかり構築していきたいという声がたくさんありまして、今回の補助制度を準備させていただいたのが実際のところです。

《質問・意見》

スタートを間違えた。私も計算したら今の小俣町並みの戸別受信機を全市に設置するためにはお金がいる。そしたらなぜ継続して検討を進めなかったのか。それをほっておいて防災放送だけ今になって半年余りで自分でやれ、回覧板回せ、ではこれはない。

本当に反省してもらわなくてはならない。それなら、この短い期間に行政としてどうキャッチアップするのかよく考えてほしい。

これからいろいろな要望を出すので答えてほしい。

《質問・意見》

防災行政無線とコミュニティ放送を分離して別々に考えているが、今まで小俣町は防災行政無

線イコールコミュニティ放送と、コミュニティ放送という呼び方はなく、防災行政無線一本でやってきた。各戸についている戸別受信機の防災行政無線ということだった。これが防災行政無線とコミュニティ放送の2つに分離したいきさつ、理由を教えて欲しい。

《回答》

(危機管理課)

電波法の審査基準の話ですが、防災行政無線は本来、防災情報を市民の方に知らせる手段であり、自治会のコミュニティ放送としては、適切な運用方法ではないということです。そこは今回デジタル化にあわせて、本来の使い方にさせていただくということでご理解をお願いします。

《質問・意見》

私はなぜ適切な使い方ではないかがわからない。せっかく防災行政無線があるのに、それをコミュニティ放送にも使った方が安く上がるし、有効な手段じゃないかと思います。どうもそこが理解できない。

《回答》

ラップ放送をコミュニティ放送で使えないか、というお問い合わせですね。

《質問・意見》

そうです。

《回答》

ラップ放送は2つあります。市が整備したのと、各自治会で整備されたのと2種類あります。

《質問・意見》

こちらは1種類しかない。防災行政無線の方しかない。自治会のコミュニティ放送にラップ放送は使っていない。

《回答》

市が整備しているもので、それを地域の方で使っていただこうとすると公民館で卓を置いて、それで放送するというやり方になるかと思うのですが、それでは緊急時に、今ですと「Jアラート」という国全体の地震とか津波のサイレンが、そうした時に地域の中で放送が重なると情報が錯乱する可能性がないですか。

《質問・意見》

緊急時が優先される。今まで小俣町時代も一般放送がやっていたても、本部からの方が優先されていた。

《回答》

(危機管理課)

現在の防災行政無線をコミュニティ放送に使うことはできません。

放送卓が御菌総合支所が基地になっていて、その遠隔操作のための機械が市役所の危機管理課にもありますが、そこからの放送しかできません。防災行政無線は防災情報・行政情報を伝える手段であり、地域の方の情報を伝えるための物となっていないし、そのような設計もされていないことから、自治会の方から放送できないのが現状です。

《質問・意見》

今の話、行政として市役所として話しているのか。メーカーから私達も聞いている。つなげると聞いている。

《回答》

(市民交流課)

山本会長から話のあった、つなげるかつなげないかということについては、今度25年度から26・27年の3ヶ年予定している自治会放送のメニューがいくつかありますが、その部分について、自治会放送という形で整備していただいた場合、今提案している機種については全てつないで行政防災情報を聞いていただけます。ただ、危機管理の既存のデジタルのものについて、そのもの自体を地域のコミュニティ放送には使えないので、今度私どもが補助をさせていただく部分について、防災行政情報が使えるというものを整備していただけると、小俣の方が業者さんから聞いているということですね。

《質問・意見》

今聞くと、危機管理と市民交流の連携がとれていない。これが問題だ。その辺が伊勢市は全然対応できていない。他の部署との連携がとれていない。その辺を改めていかないといけない。

Aの部署がこう、Bの部署がこういう意見では困る。

《回答》

防災行政無線とコミュニティ放送の関係で、防災行政無線は危機管理課、コミュニティ放送は市民交流課という全く別の組織でやっていて、その意志疎通の計り方に壁があった。これは他の事業でも同じ事が言えまして、幼稚園と保育所の関係とか諸々ありますが、その辺は課題の一つとして改善していきます。

《質問・意見》

伊勢市に外国人が千人位いて、その内就学児童が結構いる。そういう子ども達が全然日本語を話せないで、伊勢の小中学校に不応を起こしている。にもかかわらず、伊勢市のサポートはほとんどなされていない。日本語が話せなくて学校についていけない子ども達を放置して、それに対してどうにかして欲しいと教育委員会や議会に働きかけても、伊勢の教育は日本の子ども達で手一杯で、予算がないのでそこまで手が回らないとか、議員の人も話は聞くけど市に働きかけてくれないとか、燻っている思いをもった人が結構いる。

伊勢市が人権都市を掲げるならば、人権問題であって子どもには何の罪もない。日本に連れてこられて学校で不応を起こして非行に走るとか、伊勢市としてきちんと対処すべき問題であって、これから10年後20年後グローバル化していく中で、外国人労働者が伊勢市が増えてきた時に、今と同じように外国人児童が増えるにもかかわらず、それを放置して慶蔵院とか民間に任せ

たまま、あとは適当にしてください、では伊勢市としてまずい。不登校とか問題は抱えていると思いますが、子どもの権利条約に基づいて約束をしているので、伊勢市としてきちんと対処してほしい。

《回答》

はい、了解しました。

《質問・意見》

市役所に行くところだけしか教えてくれない。いろいろ連携したことを教えてもらえない。

市役所の方はその部署しか物事を知らないのか。それとも不親切なのか。全体的に教えて欲しい。

《回答》

市役所のワンストップサービスですね。その導入、人件費の関係もあり、窓口を全部民間に任せてやってもらうことがいいことなのか議論をしていますので、もう少し結論がでるまで時間がかかります。情報を共有できるようにします。

《質問・意見》

ゴミについて、再生資源ゴミの奨励金、これ6円から3円/kgに下げましたね。これによってこの処理費用が増えている。これを6円に戻して、もう一度全市的に再生資源ゴミの運動をやったらもっと燃えるゴミの量が下がる。もう一回検討してください。

《回答》

はい、わかりました。

「あと二時間位お付き合いしていただけると。」という気持ちはあるのですが、時間の関係もありますので。コミュニティ放送のことについては、大変ご迷惑をお掛けいたしました。但し一方では、コミュニティ放送をどういった形であったとしても継続したいというお気持ちもわずかながらでも配慮させていただいております。また、住民の方へのご説明等たぶん大変だと思います。またそういった時は我々できることをしていきたいと思っています。

今、別件で災害の話ですけれど、【災害時の要援護対策】一人で逃げるのが困難な方に対するプロジェクトを進めていますけれども、この前、違うところで高齢者の方が「私は、援護してほしい。」という登録をしてもらう作業のことで、判子を押しってもらう作業がすごく大変であるとの意見を頂いていますので、そういった現場も職員が出張ってお互い学ばせてもらえればと思いますので、よろしく願いいたします。

あと諸々ご意見を頂きました。全て明日、明後日解決できるというものではありませんが、今日頂いたご意見を明日には各担当課に連絡して、少しでも前へ一歩でも進めるようにしていきたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。